

家庭医療専門研修プログラムVer2.0 家庭医療専門医に必要な能力 2013.5.13	
診療と活動の場面	必要な能力
外来医療	<p>頻度の高い健康問題に対応し、相談にのり、適切な問題解決や安定化をはかることができ、必要な専門家に紹介することができる。</p> <p>健康問題は臓器、年齢、性別によって制限されず、また生物医学的アプローチと心理社会的なアプローチをバランスよく組み合わせた診療ができる。</p> <p>一般的な症候に対して適切な対応と問題解決ができる。</p> <p>頻度の高い外来急性期疾患について診断と治療ができる。</p> <p>頻度の高い慢性疾患のケアができる。</p> <p>各科専門医と協働して診療にあたることができる。</p> <p>救急外来において、重大な疾患を見逃さず、軽症救急全般及び中等症救急の一部を担当できる。</p> <p>定期健康診断の実施と判定ができる。</p> <p>全年代にわたる必要なワクチン接種ができる。</p> <p>科学的根拠に基づいたスクリーニングができる。</p> <p>栄養、運動などの適切な生活習慣の提案ができ、必要な場合に行動変容のアプローチができる。</p> <p>健康な領域を患者とともに見出し、維持していくヘルスプロモーション活動ができる。</p> <p>継続的な医師患者関係の構築を診療の中心に位置づけることができる。</p> <p>患者及びその家族が、地域で生活していく上で、常に身近な保健・医療上の資源として自らを位置づけ、身近な「かかりつけ」医機能を果たすことができる。</p> <p>患者の考えや状態を代弁して専門家に伝える機能を持ち、診療へのアクセスの保証を行うことができる。</p> <p>患者のライフコースに沿ったケアを行うことができる。</p> <p>家族と地域の文脈・背景を考慮したケアができる。</p> <p>外来診療や慢性疾患管理のシステム構築ができ、診療の質改善のための活動を継続的に実践できる。</p>
病棟医療	<p>当該地域医療機関において入院頻度の高い疾患あるいは健康問題に対する診断と治療ができる。</p> <p>検査・治療手技は診療の場の状況に依存するが、頻度の高い一般的なベッドサイドの手技を実施できる。</p> <p>外来・在宅などと切れ目のない連携が必要な虚弱高齢者の入院ケアができる。</p> <p>併存疾患の多い患者の主治医機能をはたすことができる。</p> <p>心理社会倫理的複雑事例への対応とマネージメントができる。</p> <p>地域連携を活かして退院支援ができる。</p> <p>癌及び非癌患者の緩和ケアができる。</p> <p>診断困難事例への対応ができる。</p> <p>安全管理、診療の質保証など、病院運営上のマネージメントができる。</p> <p>病院内医療者への教育活動ができる。</p>
在宅医療	<p>在宅診療に必要とされる老年医学的諸問題に対応できる。</p> <p>在宅急性期医療に必要な、アセスメント、入院適応の判断、予期せぬ臨死期の対応ができる。</p> <p>在宅緩和ケアに必要な、疼痛管理、疼痛以外の症状管理、スピリチュアルケア、悲嘆ケア、臨死期の対応ができる。</p> <p>各種連携やチーム医療にかかわる、サービス担当者会議への出席、多職種協働の実践、困難事例への取り組みができる。</p> <p>在宅医療に関連した各種制度を理解・活用できる。</p> <p>在宅医療に関連した倫理的判断ができる。</p>
地域・コミュニティ志向型ケア	<p>グループホーム、老健施設、特別養護老人ホームなどの施設入居者の日常的な健康管理ができる。</p> <p>施設入居者の急性期の対応と入院適応の判断を、入院施設と連携して行うことができる。</p> <p>地域の保健医療上の必要性に応じて、医療活動を行うことができる。</p> <p>学校医業務ができる。</p> <p>産業医業務ができる。</p> <p>医療、福祉に関する地域への啓発活動ができる。</p> <p>地域の優先度の高い健康関連問題を同定し、対策をたて、解決に資することができ、地域全体の健康度の向上に寄与できる。</p> <p>特定の健康問題をもった人口集団へのアプローチができる。</p>
教育・研究	<p>診療の場に即して、自らの学習課題を設定し、自ら学ぶ、自己決定型学習ができる。</p> <p>生涯学習に必要な情報通信技術を使うことができる。</p> <p>診療の場で生じた疑問について、EBM手法を利用して解決できる。</p> <p>診療で生じる予想外の出来事を振り返り、教訓を引き出し、次の学びや実践の課題を設定する省察的実践ができる。</p> <p>様々な専門家との人的ネットワークを構築し、対話するなかで学ぶことができる。</p> <p>医学部における卒前地域医療教育を担当できる。</p> <p>初期研修医の地域保健医療研修の指導医ができる。</p> <p>家庭医療専門研修プログラムの指導医の役割を果たすことができる。</p> <p>フィードバック技法などの、医学教育の基本的な考えかたを応用実践することができる。</p> <p>多職種連携教育の原則に基づく共同学習を組織できる。</p> <p>プライマリ・ケアや地域医療における研究の意義を理解し、様々な形で協力・実践できる。</p> <p>量的研究、質的研究双方の方法と特長について理解し、批判的に吟味でき、各種研究成果を自らの診療に活かすことができる。</p>